

2017 年版北海道高体連体操競技男子一部適用規則

(北海道内のみ適用)

平成 2 8 年 3 月制定

平成 2 9 年 3 月ルール改正に伴う変更

北海道体操連盟審判部・北海道高等学校体育連盟体操専門部

○以下の減点緩和をおこなう

①ゆか・つり輪・平行棒・鉄棒の終末技 D 難度以上での着地減点
－0.5 まで

②跳馬：4.8 以上の価値点技の着地減点 －0.5 まで

③鉄棒：C 難度以上の手放し技での落下減点 －0.5

※①と②については、実施した技が認定された場合に限り
着地に対しての減点緩和であり、それにいたる実施減点について
は採点規則と同様である

※③については、落下に対しての減点緩和である
それにいたる実施減点については採点規則と同様であり、難度と
グループⅡも不認定となる

2017 年版北海道高体連体操競技二部適用規則

平成 2 1 年 4 月制定 (旧)

平成 2 9 年 3 月制定 (新)

北海道体操連盟審判部・北海道高等学校体育連盟体操専門部
2017 年版とともに新たに作成されている U15 ルール (全日本ジュニア A クラス) を基盤とした。要求グループは一般ルールに合わせた
るが、あん馬②③・つり輪③・跳馬において 2 部独自の要求とした。
また、初心者にも対応できる スモール A (a) を設定した。難度につ
いては、制限 (禁止技) はあるものの、得意分野において力を発揮で
きるルールとなった。安全面の配慮や怪我・故障に十分注意しな
がら取り組んでもらいたい。

一下記以外は 2017 年版採点規則・高校適用規則に則る一

●採点方法：D・E スコア方式

●技数：7 技 (6 技 + 終末技)

* 難度表にない技を、難度認定の特例に記載通り スモール a とし
て、A 難度同様、0.1 の難度点を与える

●技のグループ

* 一般ルールを基盤とし、基本技の要求を加えた

ゆ か	① 跳躍技以外の技 ② 前方系の技 ③ 後方系の技 ④ 終末技	i 倒立静止の技 (0.3) ※ ¹ ii 開脚座 (0.3) ※ ¹
あ ん 馬	① 片足振動・交差技 ② 両把手での旋回 ③ 両把手以外の旋回技 ④ 終末技	* 3 部分不使用の減点なし * 旋回は各 2 回まで認定 (両把手、馬端、逆馬端)
つ り 輪	① 振動技 ② カ技・静止技 (2 秒) ③ 倒立 (2 秒) ④ 終末技	前方/後方車輪倒立 (2 秒) C: 0.3 → 0.5、グループ③
跳 馬	1 回半以上の宙返り技以 外の技	
平 行 棒	① 両棒での支持技 ② 腕支持振動技 ③ 長懸垂・逆懸垂振動技 ④ 終末技	i 倒立静止の技 (0.3) ※ ¹
鉄 棒	① 懸垂振動技 ② 手放し技 ③ バーに近い技 ④ 終末技	* 振れ戻り (後ろ振り上がり、 逆手から順手の両手もちかえ) を減点しない

※¹ ゆか・平行棒：グループ①の中で i ii を実施すること
(実施しない、認定できない場合… E 評価より各 -0.3)

●難度点 (跳馬を除く)

A (a) = 0.1 B = 0.2 C = 0.3 D 以上 = 0.4

※ つり輪の前方・後方車輪倒立 (2 秒) を実施した場合、0.5 の難
度点を与えられる

●グループ点 (跳馬を除く)

C・B・A = 0.5 a (スモール A) = 0.0

●終末技の難度とグループ点 (跳馬を除く)

B 以上 = 0.5 A = 0.3 a (スモール A) = 0.0

●加 点

* あん馬を除く 5 種目で着地を止めた場合、E 評価において 0.1 の
加点を与える (スモール a を除く)

●難度認定の特例

高校適用規則に準じて設定

* A 技として、難度表にないが A 難度認定する技
(要求グループと技数を満たす)

つり輪/平行棒/鉄棒	④ 前方、後方かかえ込み宙返り下り
鉄 棒	③ 足裏支持回転倒立

* スモール a 技として、難度表にないが A 難度認定する技
(要求グループは満たさず技数だけを満たす)

ゆ か	・伸膝前転 ・側転 ・ロングート
あん馬	・四つ足 (左入れ～右入れ～左抜き～右抜き) ・2 つ目の (旋回、正交差、逆交差) ※ ² ・馬端中向き上向き下り
平行棒	・開脚前拳 ・腕支持～後ろ振り上がり支持 ・懸垂前振り～後方かかえ込み宙返り下り (棒間)
鉄 棒	・懸垂前振り逆上がり ・後ろ振り上がり支持 ・両手を同時に持ち換える技 ・2 つ目の (後方車輪、前方車輪) ※ ² ・足裏支持回転下り
跳 馬	* 開脚とび … D = 0.1、E = 他の跳躍技と同様

※² 2 つ目というのは、連続の有無に関係なく適用される

* 初級レベルを考慮し、独自の難度設定をした

●ND (ニュートラルデグレーション) … 決定点からの減点

短い演技・禁止技・ライン・タイム・服装違反・オーダーミス

7～5 技	0.00
4～3 技	-2.00
2～1 技	-4.00
禁止技	-5.00
ライン	毎回 -0.1: 片手または片足、-0.3: それ以外
タイム	-0.1: 2 秒まで -0.3: 5 秒まで -0.5: 5 秒を超える
服装違反	-0.30: 個人に対して (マーク/ゼッケン/競技服)
オーダーミス	-0.30: 最初に間違えた選手から

●E 採点

小欠点	0.1
中欠点	0.3
大欠点	0.5
落 下	0.5
転 倒	1.0

* 落下を除く減点を一般ルールと共通にすることによって、実施の
要求レベルを統一する

* 雄大で質の良い演技実施を期待し、落下減点を緩和した

●禁止技の設定

共 通	・2 回宙返り (跳馬は、1 回半宙返り技) ・FIG ジュニアルールでの禁止技
鉄 棒	・C 難度の手放し技

※ 禁止技を実施した場合、その技の価値・技のグループは認められず、
実施減点と ND - 5.00 を伴う

●種目共通

* 半中間振動 = 減点なし、中間振動 = 0.3 減点

* 肩倒立 (90 度以上腕曲がり) = 0.5 減点 + その他の減点

●補足

* つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒において追加マットの使用を認める

* 平行棒において、安全マットの使用を認める

(つり輪・跳馬・鉄棒は安全マットを使用しなければならない)

※ 安全マット = びたりマット、追加マット = エバーマット

以上